

ひかりのこ

11月園便り

聖ミエル幼稚園
2019年10月18日

月主題：共感する

10月に入って、朝晩の気温が低くなり、幼稚園でも朝少し暖房を入れたりしています。また、インフルエンザA型がもう出ているので、加湿をしたり、ドアや、子どもたちが触るところを消毒して、感染がおこらないように注意しています。

子どもたちは、というと、とっても元気に生活発表会の練習を進めています。セリフや歌や楽器の演奏も、とっても上手になりました。何よりもみんな楽しそうです。

年長さんは小学校入学があと半年後。年中さん、年少さんもあと半年で進級していきます。それぞれの子どもたちが、4月に比べると心も体も大きく成長してきました。

さて、先日札幌私幼の研究大会で、大変良い講演を聞きました。講師は環太平洋大学教授、内田信子さんです。

その中で、乳幼児期は脳が劇的に発達する、というお話がありました。イメージする力、様々なことを理解したり、活動につなげていく力は乳幼児期に劇的に発達していきます。その成長を助けるのが、外界からの働きかけです。その働きかけとは、テレビやスマホの働きかけではありません。家族やお友達や先生、自然や良い遊具などの環境との直接的なかかわりの中で成長していくのです。

内田先生は、幼児の早期教育の危険性もお話してくださいました。言葉を無理に教え込んだり、ドリル学習をさせたりすることは子どもの能力を高めるところか、脳（言語理解をつかさどるウエルニッケ野）が委縮してしまう、という研究結果があるそうです。また、母国語（日本なら日本語）を定着させる幼児期に無理に英語を使う環境（留学など）に子どもたちを置くと、大きくなってから英語、日本語の使い分けに苦労する、という研究もあるそうです。

言葉だけではありません。幼児期に体操、バレエ、ダンス教室に通っている子どもの運動能力が、習っていない子どもよりも運動能力が優位に低く、運動嫌が多い、という研究もあるそうです。お子さんが楽しんで通っているならいいのですが、無理にやらせることがいいこととは思いません。

幼児期は様々な経験を、ゆったりとした環境の中で、大好きな大人やお友達と共にしていくことが、良いとされています。

聖ミエル幼稚園でも、行事に向けて歌や劇を楽しんだり、お外で好きな遊びをしたり、温かな先生の声で絵本をたくさん読んでもらったりして過ごします。この活動こそが、子どもたちの言葉の発達や、生活の力の発達に良いのではないかと考えています。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「愛すること、よく見ること」

まだデジカメがこの世に存在しない頃、フィルムを自分で現像し、自宅に暗室を作って写真を焼いていたことがあります。写真が上達せず悩んでいると、ある写真家が「写真とは対象への愛だ！」と言った言葉が目にとまりました。そして、愛とは、対象をよく見つめることだと。これには思い当たることあって、カメラのシャッターを押す前に、対象が人であろうと物であろうと、漠然としか見ていなかったのです。

イエス様は本当によく人を見つめるお方でした。外側だけでなく、相手の心の中も、その人が歩んできた人生や、いま直面している問題や苦しみも見通すのでした。その上で、癒やしや問題の解決が与えられるのです。イエス様にとって、愛するとは相手のすべてを見つめることから始まります。

このことは、保護者の皆さんや先生たちが、子どもたちと接する時のヒントになるのではないのでしょうか。愛する人をただ漠然と見たりはしません。必ず目をこらして見るでしょう。改めて子どもたちの外側も内側も、しっかり見つめ直したいものです。とはいっても、私たちはイエス様のように万能ではないので、見落としていること、失敗も多々あるものです。そんな時、不思議なことに子どもたちは別の方法で「こっちを見て」とサインを送ってくれることがあります。それは大人に対する助け船であり、愛のお返しかも知れません。幼稚園は、子どもも大人も、愛することを少しづつ学んでいく、教習所のような場所だなあと感じてなりません。

チャブレン 司祭 下澤 昌